miasa みあさづくり通信
北アルプスを望む麻の里
http://miasa.info/
2009年 7月号
No.18

はじめての給食

今年で９回目の訪問団を迎えたメンドシーノ交流事業の学校交流会の様子です。

今回は、訪問団３６名と小中学生が全員一緒に給食を食べることになりました。この日のメニューは、おやき、そうめん汁、から揚げなど、超満員のランチルームで、日本式の給食を体験していただきました。

－ 18 号 の 内 容 －

◇地域の話題
・メンドシーノ交流事業
・アート&クラフトショー
・保育園地域交流会　　ほか
◇地域づくり活動報告
・各部会の活動
・美し村開拓協議会　　ほか
◇お知らせ

広報誌にない情報もインターネットで日々更新中！ 美麻 Wiki 検索

編集・発行 美麻地域づくり会議
■連絡先（事務局） 美麻支所 総務民生課 総務係
■電話 0261-29-2311 Fax 0261-29-2333 電子メール info@miasa.info

2009 メンドシーノ交流事業

メンドシーノ訪問団帰国される

７月３日来訪されたメンドシーノ訪問団の皆様は、５～６日間ホームステイをされ、日本の日常生活、食文化に親しまれ、心に残る大町美麻の思い出を作ることができたと思います。

今回は、大塩市民農園で太鼓の製作に子ども達は意欲を燃やして取組まれ「製作した太鼓で演奏できたことは、非常にうれしく、お土産としてメンドシーノへ贈っていただけることは、何よりの喜びだ」と話されておりました。

また、美麻小中学校とメンドシーノの学校（K-8）との姉妹校提携協定書の原案を作成し、この内容で了解いただければ、来年訪問した折に、協定書の調印をすることで話し合われました。

ボランティアネットワークの皆様に支えられ、交流会では浴衣姿に身を包み、日本の伝統衣装の美しさを満喫できた様子でした。病気もなく無事に帰国できましたことに感謝申し上げます。

姉妹都市交流実行委員長　北沢伊紘男

メンドシーノ交流会 大盛況！

36名のアメリカメンドシーノ訪問団が、7月6日に美麻小中学校にお越し下さいました。盛大な歓迎セレモニーを体育館で催し、その際に行われた中学校3年生によるコミカルな日本文化や美麻小中学校の紹介によって、笑いが巻き起こり大盛況でありました。

そして「幸せなら手をたたこう」を訪問団も含め全員で歌い踊り、なごやかな雰囲気に包まれました。訪問団の子どもたちからは素晴らしい歌声を聞かせていただき、全員が聴き入り感動しておりました。歓迎会後、子どもたちは各学級に分かれ、七夕飾り、日本の遊び、はんこづくり、書道、日本屏風づくりなどの様々な学習活動を行ったり、また生徒会企画ではトントン相撲、忍者、折り紙などを行ったりして交流を楽しんでおりました。

お別れセレモニーでは、来年度、メンドシーノに訪問する小学校5年生が中心となって美麻音頭を披露し、それを囲んで全員が踊り、なごりを惜しみました。

たった一日ではありましたが、子どもたちにとって素晴らしい思い出になったのではないでしょうか。この交流活動がより一層深まり発展することを願っております。

美麻小中学校

クラフト交流で太鼓づくり

7月4日、大塩市民農園でクラフト交流で桶太鼓作りを行いました。これはメンドシーノ交流ボランティアが企画し、三井住友海上文化財団の助成をうけ、工芸家の小田時男さんが太鼓の胴を作成し、源流美麻太鼓と和太鼓「結」の皆さんの指導により、子ども達が皮を張りました。太鼓の胴には参加者みんなで寄せ書きをしました。交流会では、このほか中島由子さんによる人形作り体験や、うどん作り体験も行いお昼ご飯に食べました。

出来上がった太鼓を美麻源流太鼓の皆さんが演奏し、交流会では、メンドシーノ訪問団への贈呈式を行いました。

こちらの太鼓は、美麻源流太鼓寄贈の2つの太鼓と合わせて、１０個をメンドシーノの学校へ贈り、今後、メンドシーノでの教育に役立てていただく予定です。

（メンドシーノボランティア　前川浩一）

皆さんの協力に感謝！

今回の交流事業の歓迎会や交流会で、大勢のＰＴＡ会員の皆さんのご協力をいただきました。歓迎会での一番の問題は「どんな料理を出すの？」「どのくらい必要なの？」など、もてなしの料理についてでした。

交流会には、100名をこえる人が集まりました。

前回の写真や、ボランティアネットワークの皆さんの記憶を頼りに、ご飯類・麺類・おかず類・サラダ類・デザート類の５種類に分け、それぞれを小学校４年生から中学３年生の各クラスのＰＴＡ会員の皆さんに快く引き受けていただき、本番を迎えることができました。会が終わり、会場を出て行くときのメンドシーノの皆さんの笑顔、そして「アリガトウゴザイマシタ。オイシカッタデス。」の言葉にホッとしました。ＰＴＡ会員の皆様、本当にご苦労様でした。　**（PTA会長　小林　稔）**

ホストファミリーを終えて

「あっ、風呂に入れって何て言うんだ？」身振り手振りで、へんな汗かいてる私。戸惑う妻。若干不安げなリアとリリ。シカト気味の娘。物陰から出てこない息子。

どうなることかと思いきや、二日目、三日目、完璧なアクション会話を身につけた私と妻。普通に楽しんでる娘。リアとリリに挟まれてご満悦の息子。

終わってみれば、なんとも言えぬ寂しさに包まれた我が家。彼女たちがどう思ったかは定かではないが、今回の体験はやった者にしか分からない、すばらしい思い出を私達家族に残してくれた。

風呂で息子がポツリ「また会えるかな？僕の事、覚えてくれるかな?」どうやら一番おいしかったのは、息子だったようだ。

彼がメンドシーノに行かれるのは3年後、成長した彼と、もっと成長した彼女たちの再会を今から楽しみにしている親父です。リア、リリ、本当にありがとう！See you again！で、良かった？ **（保科充志）**

大町MIASAメンドシーノ アート&クラフトショー2009

6月18日から7月20日まで約1カ月間開催された、国際交流アート＆クラフトショーも無事終了することができました。期間中は市内外から大勢の来場者に観ていただき有難うございました。6月21日には塩の道博物館において、メンドシーノからの9名アーティストを迎えての歓迎レセプションパーティーが企画されました。市長をはじめ約80名の方々に参加頂き、会場は大盛況。

中でも、アーティストから提供された20本ほどのメンドシーノのワイン・ビールと、市内の造り酒屋3社提供の地酒の試飲会が場を盛り上げてくれました。重いワインをはるばる持参してくれたアーティストたちと酒樽を提供くださった蔵元3社に感謝いたします。今回はじめての試みにも関わらず、情熱的に昨年から準備にかかわってくれた運営スタッフと、アーティスト滞在中にお世話をしていただいたボランティアスタッフなど、総勢30名以上の方々の協力がありました。

加えて、会期中にも新たなスタッフの参加があり、将来に向けてたいへん心強く思います。来年はこちらの作家がメンドシーノ・アートセンターにて展覧会を開催する予定です。2011年大町で再び行われる展覧会の成功に向け準備しつつ、大町市の名物企画になっていくことを期待します。

大町MIASA/メンドシーノ芸術交流プログラム

小田時男

保育園で地域との交流会

6月27日、恒例の保護者作業及び発表会が無事できました事、関係者の方々に感謝するとともに「ホッと」しています。

今年は児童の人数も少なく、保護者だけでは作業に時間がかかり過ぎてしまうのではないかと心配していました。

しかし、地域の皆さんにお手伝いいただき、予想以上に段取り良く作業を終わらせることができました。また、発表会では作業に参加いただいた地域づくり会議の皆さんにも見ていただき、地域の皆さんに「子供達は見守っていただいている」と、とても暖かいものを感じました。そして、サプライズでご用意いただいた足湯には子供達も大喜び！

例年の保護者作業では感じ得なかった地域とのコラボレーションは大成功だったと思います。作業にご参加いただき、子供達を見守っていただきました皆様、本当にありがとうございました。また、今回はご参加いただけなかった皆様も、次回9月15日は是非ご参加いただき、美麻の子供達を見守っていただきますようお願いいたします。

みあさ保育園保護者会　　担当　山口

保育園の地域交流会は、『美麻地域づくり会議の会員活動支援事業』に提案いただき実施することとなりました。
「こんな事業をやってみたい」「活動に協力してほしい」など会員の皆様の提案をお待ちしています。お問合せは事務局（29-2311）まで、

どうなることやら　ふるさと再生ワークショップ　最初の一歩

各部会の活動報告

去年の夏早朝40人超の人間、今年も30人程が集まって、草刈り機の音が響いた。背丈を超える葦原の下から30年前の棚田が現れた。藤の『わかた地区』は北アルプスの借景が見事だから、荒れ果てた風景は似合わない。昔の棚田の風景を蘇らせたいと思う者は多い。棚田は『業としての役割』はすでにないのだが、風景を含む自然環境維持の観点から見直されている。地域の農業そのものが、『業』から『環境や生きがいの分野』にシフトされつつあることも、みんな感じている事。百姓は「乗用のトラクターでないとやる気にもならない！」「業としては成り立たないのだから、せめて楽しく農作業を！」というわけ。

ここは以前、耕運機が「田んぼから田んぼへ渡り歩き」相当の危険を感じながらだった。棚田再生班は『安全に楽しく農作業を！』と、『作業道の整備』と泥だらけの作業解消のため『上水路の整備』に取り組んでいる。

なんとか10アールほどは耕せたのだが、泥田の状態だし、かといって田んぼに復元するには長い間に水平がくるってしまって水がたまらない。長雨の影響で計画通りには進まないのだが、来年の『春に菜の花が咲いて』いたら、拍手してください。

（棚田再生班）

蜜蜂作りワークショップ班で日々の勉強に努力している一人です。私は日本ミツバチについて、２年ほど前から興味を持ち、その飼育方法を学んできていましたが、ただ蜜蜂を飼えばいいのだと思っていましたが、こんなに難しいものだとは知りませんでした。

今回このプロジェクトに参加をしてもっと詳しく勉強したいと考え取り組む事といたしました。蜜蜂を飼うには、まず基になる蜜蜂の購入から始まりました、おかげさまで蜜蜂を譲ってくれる人がいて、２群購入し飼育しています。

早朝４時、日本ミツバチがやって来た

７月１８日東京銀座ファームエイド2009（銀座ミツバチプロジェクト見学）に参加し勉強をしてきいりました。

「蜜蜂の飼育方法にもいろんな方法があるんだなー」とつくづく考えさせられました。

今後は小藤の棚田に蜜蜂の郷を作り、都市との交流の場に出来ればを考えていますので、大勢の皆さんが参加されますようお願いいたします。まだ研究段階ではありますが、飼育方法は皆で研究をし、持っている知識を出し合って成功できますよう知恵を提供していただきたいと思います。

（宮沢華佐夫）

地域発　元気づくり支援金
《助成事業》

地域発　元気づくり支援金
《助成事業》

ふるさと再生ワークショップ
各部会の活動報告

足湯部会報告

ワークショップの目的は、森林整備事業で発生する切捨て間伐材を薪として利用した移動式の足湯をイベント会場に出張し、間伐材の利用を再認識してもらうことです。

この年で、班長を仰せつかり不安もあり経験もないことなので、大勢の皆様からご協力いただきながら「美麻間伐温泉エコ（枝木）の湯」美麻地区第三の温泉と銘打って、地域の方々の交流を深め、活性化につなげたいと考えております。

第1回目の設置は、美麻保育園です。はじめてのことであり湯加減がむずかしかったですが、園児や保護者の方々は初めての体験とあって喜んでいただきました。その後、２基目を作成し、７月１９日に大町ゆかた祭りへと繰り出しました。

温泉を使用するという事で、温泉利用届け（水道水の場合は許可必要なし）の許可を保健所からいただき、塩の道博物館ポケットパーク美麻特産品売り場の奥に設置し、２種類の温泉（ぽかぽかランド美麻温泉、上原の湯）を用意して、国営公園の開園に訪れた人たちからも楽しんでいただきました。次回は、８月９日美麻いーとこよっとくれフェアに出張します。皆さんも足と足のふれあいで地域を語ってみませんか。

飯沢　敏夫

地域発　元気づくり支援金
《助成事業》

ホタルの里復活に向けて

平成２１年６月２６日（金）に、第一回目のホタル部会を開き、これからの方針を話し合いました。美麻では、現在、ホタルの復活に取り組んでいる大塩地区、個人的にホタルを、増やそうとしている地区（新行、二重）、まだこれからスタートの地区もありますが、各地区とも必要なホタルの幼虫の餌になるカワニナを、増やすことに予算を使うことになり、カワニナの飼育装置の購入を決定しました。

購入したカワニナ飼育装置

平成２１年６月３０日（火）午後７時から、大町蛍の会の観察会に、ホタル部会で参加し、ゲンジボタルを観察しながら、宮田先生のお話を聞き、いろいろ勉強になりました。

稚貝の生まれたカワニナ
小さすぎで稚貝は写りません

７月には、ホタルの幼虫の餌になるカワニナの飼育装置を購入し、飼育を始めましたが、なかなか稚貝が生まれなかったのですが、７月２３日に、１ミリ程の稚貝を確認しました。美麻のすべての地区にホタルが舞うのを期待してください！

中島　満

地域発　元気づくり支援金
《助成事業》